



会長	紺野 広	青少年奉仕	夏川戸 齊
副会長	橋本 昭一	幹事	松本 剛典
クラブ奉仕		会計	妻神 和憲
会長エレクト	橋本八右衛門	会場監督	佐々木泰宏
職業奉仕	道尻 誠助	直前会長	小林 幹夫
社会奉仕	岡崎 孝文	副幹事	小田山紀暢
国際奉仕	鶴飼 寿栄	会計補佐	小井田和哉

例会日	毎週水曜日 12:30	例会場	八戸グランドホテル
事務所	八戸市番町14		八戸グランドホテル内
	電話 (43) 0608	FAX	(43) 0661
	e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp		
	http://hachinohe-rotary.org/		
会報・広報委員長	峯 正一	同副委員長	上村 奉樹
同委員	妻神 和憲	同委員	野村 一雄

国際ロータリーのテーマ — 2023~24 — 八戸ロータリークラブのテーマ

世界に希望を生み出そう

和而不同 (わじふどう)

国際ロータリー会長 ゴードン R. マッキナリー

八戸ロータリークラブ会長 紺野 広

12月 は 疾病予防と治療月間です

第3293回例会

2023.11.22

会長要件 紺野 広 会長



基隆クラブ70周年記念式典に参加を主目的に5日間の日程で行って来ました。基隆との姉妹クラブ締結からもう50年で、当クラブにとっても節目となる交流でした。基隆の歓待はいつもと同じで、とても温かい、心のこもった歓待でした。自分たちも式典で忙しかつたのですが、われわれを式典と同じくらい大事なものと位置づけて友人として対応してくださいました。当方からは小林さんの奥様を含めて14名参加、クラブ会員は13名の参加でした。初めて基隆ロータリーとコミュニケーションを取った、台湾に行った会員は4名。松本さん、中村さん、小山田さん、高田さんでしたが、それぞれが歓待に感激し、帰って参りました。

中村稔彦さんは基隆とのやりとりの窓口のすべてを引き受けてくださいました。小田山さんは添乗員さんのサポートを一生懸命やってくださいました。松本剛典さんは幹事の仕事をしっかりやっていただき、ステージ上での記念品交換や調印式で職責を果たしてく

れました。高田さんは基隆の方々ともすぐ打ち解け、彼の人懐っこさで友好に一役買ってくれました。いろいろお話ししたいことはたくさんありますが、来月13日に少し時間をとって中村稔彦さんと小田山紀暢さんにお話をさせていただきます。

わたしからは帰ってくるときに少しトラブルがありました。わたしのスーツケースが23kgを超えて24kgになって、そこで足止めをくらいました。台湾ドルで10000円を払わないといけなかったのですが使い切っていて、ちょっと手間取りました。あちらのレオ会長がわたしが払うと言ってくださいました。

あちらで用意した女性通訳が3kg出して手提げに入れなさいというアドバイスをしてくれましたが、あちらから頂いた記念品の上の部分スーツケースに入らないので捨ててしまっていた。大事な置物自体は持って来ましたが、ケースはどうしても入らなかったため、ホテルに置いてきた。その置物も壊れないようにするために洗濯物でくるんでいたため、とてもそこで開けられる状態ではありませんでしたので、お金を払うことにしました。

あちらの会長が払ってくれると言ったとき

に、通訳さんにどうしてそこまでしてくれるの？聞いてもらったところ、レオ会長はファミリーだからということ話をしてくれました。走って手荷物受付カウンターで払うと言ってくださって、手続きを済ませて、やっとわたしは帰ってくることができました。

彼らと付き合っていると何か田舎に帰ったような気がします。小さいころ田舎に帰るとこれを食べろ、あれを食べろと言われて、田舎では食べさせるのが精一杯でした。おじいちゃんおばあちゃんにそうされたのを思い出しました。彼らにとってはわれわれはそういう存在なんだということ改めて意識して帰ってきましたし、行った皆さんも恐らく同じような思いで台湾での時間を過ごしたと思います。

われわれは基隆から遅れて2年後に70周年を迎えることとなります。また国際ロータリーの世界大会も2年後に台湾で行われます。来年の約束まではして参りませんでした。その年には行ったり来たりしようねということ話を参りましたので、ぜひ皆さん、台湾に行ったり、来たときには彼らに負けない心尽くしを一緒にしたいと思います。

幹事報告 松本 剛典 幹事



今回基隆ロータリークラブ70周年に同行しましたので感想を述べさせていただきます。初めての台湾ということでどうなるのかなと思いましたが、本当に貴重な体験をさせていただきました。バスが路線バスとぶつかって、わたしと中村さんが30分くらい交差点でボケーッとタクシーを待ったり、ある方はお腹を壊して1日中たいへんで、帰れるのかと心配したり、それ以外にもあちらの方々にもいろいろな体験をさせていただいて、屋台にも行きましたし、基隆の夜市にも行きましたし、いろん

なところに連れて行っていただきました。

おもてなしという日本人が一番かなとは思っていたのですが、今回の旅行でわたしは台湾の方のほうがおもてなしはすごいのではないかという、そういう貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。

○来週29日は職場訪問例会です。12:10グラントホテルを乗り合わせで出発し、水道企業団に伺います。終わったあとにお弁当を皆さんにお渡しする予定でしたが、11時~12時までグラントサンピアを貸していただけるということですので、時間的に早めに来られる方はこちらでお弁当を食べてから訪問先に向かうこともできます。時間的に厳しい方はお弁当お持ち帰りいただくこととなります。

○来年の八戸市競技カルタ小中学生大会の第1回打ち合わせを岡崎委員長、小田山さんとわたし、工大二高校の和田先生で行いました。日程は2024年2月4日(日)、南部会館で行います。8:40集合、受付。詳細は12月に入りましたらお知らせいたします。

委員会報告

親睦・会場委員会 竹下親睦会場委員



○ニコニコボックスの報告

- ・誕生祝 寺下一之さん
- ・奥様誕生日 山田慶次さん
橋本八右衛門さん

基隆訪問、お疲れ様でした！

渡辺 孝 } 栗谷川さん、宮下さん、新会
小田山紀暢さん } 員卓話よろしくお願ひします
渡部 充さん } くりちゃん、卓話ナイス
シュート!!

熊谷清一さん 申し訳ありませんが、早退いたします。

松本剛典幹事

紺野会長から皆さんに台湾のお土産があります。パイナップルケーキですので、食後にお召し上がりください。



新 会 員 卓 話

・栗谷川敏彦さん (有)創水舎代表取締役



弊社は来年で20年を迎える会社です。皆さまにいろいろ支えられまして、この20年近く何とか会社のほうは存続できてきましたので、今後とも

皆さんよろしくお祈りいたします。

水道工事店といういろいろな種類があります。一般家庭、ビル、消火栓関係、インフラの道路の水道本管工事などがあります。当社は取りあえずどんなこともできるように、住宅、ビル関係、消火栓関係も本管工事もできるようになっています。従業員たちはたいへんかも知れませんが、スキル力はかなりついてきているかと思えます。

そこで本管工事でむかしあった事件の話をしたと思います。水道管というのは導路は川の方から浄水場まで引っ張ってきて、浄水場できれいになった水をポンプで送って高い場所の高架水槽みたいなものはあちこちにありますが、それに送るポンプ場が漏水した事件がありました。今後、八戸圏域水道企業団に行きますが、この話はないことに。この辺は災害でもすぐなります。

それが馬淵川から引っ張った水を多賀台で浄水して五戸の兎内ポンプ場まで送っています。それを五戸町のひばり野配水場まで送っています。使っているパイプの種類もまったく違うものを使っていました。中古のパイプを使っていました。というのは水圧はものすごい力をかけないと送れないんです。ところがそのパイプが破損したんです。

それで役所から電話が来て、水が漏れている、何とかしてくれ。まず現場を見に行きました。ものすごい量の水が漏ってる。建物を壊すわけにはいかないので、建物の下を横から、配管からぜんぶ見えるようにしました。そうしたらものすごい量の水が漏れていました。

急遽、材料はメーカーさんをお願いして超特急で配達をお願いしましたが、翌日とかに

なります。出る水が止まってしまったら、五戸の町の水は全部止まってしまう。急遽、潜っていきまして、漏れている場所を緊急的に水の出る量を少なくして、その後、搬入された部品に交換していくのですが、タイムリミットがあるんです。何時間で終わらせろ。満タンな状態で漏れたので、それが何時間で空になってしまう。ということで、工事をしたことがありました。

電源関係の保守点検もむかしやっていました。そこである事件がありました。旧八戸市民病院がありましたが、手術室に故障があればダメだということで、わたしたちに定期点検をしてくれと依頼がありまして、毎月1回ぜんぶ点検するんです。天井裏もぜんぶ点検していきます。空調関係もぜんぶ点検していきます。

たまたま待機していたら、手術のほうが長引きました。ちょっと待っててください。それで用を足しにいきました。そしたら昔の市民病院ですから、ギーっと木の戸の開く音がして、トイレの隙間から黒いものが降ってる。出て行かないので、水を流しました。それでも出ていかない。もう1回流してみました。それでも出ていかない。気配はしているけれども。これはまずい。恥ずかしくてもいいから出よう。おかしいなと思いました。

昔のトイレは男子トイレ、女子トイレの真ん中にボックス室がある構図がよくあったので、きっと真ん中を通ってきたのかな。確認しに行ったら、そこは男子と女子はまったく別々でした。おかしいな。それで窓のほうを見たんです。窓を見て、下のほうを見ましたら、“やっぱり”でした。霊安室の真上だったんです。と、いう事件もありました。

一番最初に設備関係に入りまして、半年くらい現場で修行をし、その後、米軍基地に飛ばされました。大手の設備屋さんの手伝いということで米軍の現場事務所で仕事をしました。米軍基地となるといろいろな仕事のコースがありました。町1つにお湯の管、蒸気の管

とかを道路に埋設する。
普通だったら、ビルだったら、そこに給湯器をつけてお湯を出すのが普通だと思いますが、米軍関係だとまったく違います。でっかいポイラーをつけまして、町ひとつ全部にお湯を配る、蒸気を配るというシステムになっています。その現場管理をすることになりました。やはりものすごくでかい工事ですから、1つの町だから、まっすぐだけではないので、まっすぐなパイプをつないで各場所に行きます。この角度が間違っていると、その場で直せる部分と直せない部分が出てくるので、ほんしつ管といいますが、そちらをメーカーさんに話を送ってもらう。なかなか何も知らない状態で米軍さんの現場事務所にいきましたので、低層住宅、中層住宅、高層住宅というかたちで、みんなビルに入っていきます。米軍の裏の方まで行って見て、いろいろ覚えています。中でスピード違反で捕まりまして、監督と事務所に行っておめんなさいしてきたこともありました。あそこは点数制で15点になるともう入れなくなってしまいます。そういう経験もしました。

直近では米軍基地では小川原湖から水を取っています。そこを浄化していい水かどうか検査する機械があるのですが、それを直してきました。

20数年前ですが、米軍基地内で仕事に入っているときに変なものが走っているんです。トラクターに横から見て運転手と助手がいて、銀色の服を着ている。でもトラクターです。でも銀紙みたいなかっこう。これはなんだ。トラックじゃないんです。トラクターです。その運転手さんと助手さんはここしか開いていませんでした。それもガラスの中で。横を通ると形が見えてくるんです。皆さん想像通りのものだと思いますが、あそこにはそういうものがあるから……。今のは何だったんですか。いろいろおもしろい現場もありました。

今回ロータリークラブさんに入らせていただき本当にありがとうございます。皆さんすばらしい方ばかりなので、日々勉強になります。皆さんの後ろ姿を見ながらわたしも頑

張っていきたいと思いますので、いろいろご指導のほうよろしくお願いいたします。

宮下 悟さん (株)文展美術印刷代表取締役社長



(株)文展美術印刷の経営をしております。同じ業界の大先輩の峯さんがいらっしゃいますので、印刷の話はおこがましいので、きょうはどういう

会社なのか、どういったことをしているのか、業界が置かれている立場を聞いていただきたいと思います。

創業は1953年で今年ちょうど70年になります。社屋の写真、正面玄関、裏側に印刷工場があります。1997年に桔梗野工業団地に新築移転した会社です。やっているものは総合印刷とうたっていて、印刷という名のつくものは何でもやる会社ですとは一応言っているのですが、中には得意不得意というのがあります。わたし共が得意とするのはオフリング印刷機と申しまして、瞬間大量印刷。新聞に折り込まれてくるちらし、こういうものをやっております。

この機械は通常の折込みチラシの一番大きいB2サイズを1時間に48,000枚生産できる機械です。半分のA3チラシではその倍の96,000部。一番小さいB4チラシが主流になっていますが、これですと1時間に192,000部製造できる機械です。会社の売上の8割前後をチラシに依存している会社で、ひじょうに苦境に立たされている業界です。通常の印刷機は平たい紙を仕掛けますが、オフリングの場合はロール紙です。東日本大震災のときは三菱製紙さんの周辺にこのロール紙が道路をふさぐくらいに散乱したのを見た方もいらっしゃるかと思いますが、こういうロール紙を使っています。

一方でこちらはオフセット枚葉印刷といたしまして、主にポスター、リーフレット、冊子、手の込んだもの、どちらかといえばクオリティを求められるものに使います。峯さんのところはこちらの方を得意とされておりまして、わたし共とは獲物も違いますので、間

違ってぶつかることはありません。逆にお互いに不得意なものを握ってしまったときは、峯さんのところに協力をお願いしたり、逆にちらしにひっかかったりしたときはうちを使ってもらったり、そういう協力関係ですので、皆さん心配なさらずに。

これはオンデマンド印刷機といいます。コピー機にちょっと毛の生えたようなものです。小ロット、主に名刺ですとか、DMのはがき、チケット類。連続〇番というナンバーを入れられる機械です。年賀状もこれでやります。コピー機と同じトナーを使っているものですから速乾性がありまして、本当に急ぐもの、今日中にはがきを刷ってくれというものにはこれがあれば対抗できるという機械です。だいたいこの3種類をメインでやっていますが、総合印刷会社ですから、手に負えないものがあつたときにはネットワークを使って対応しています。

ちょっと暗い話になりますが、いろいろ環境問題やSDGsなど紙は草？という世の中の流れになっていて、衰退産業といわれています。もう何年も経ちます。ちょっとでもわたし共のほうの立場で言わせてもらえば、紙なんかよりもっともって有害なものがたくさん、紙より遥か多いくらいに生産されているのに、なぜいつも紙だけがつるし上げられるのだろうというちょっと不満はあります。ただそれは世の中の流れですから仕方がない。じゃあ、どうしますかということになるんです。

例えばこれは新聞の発行部数です。一番印刷が盛り上がっていた時期は2000年には5,370万部発行されていたものが、去年は3,080万部。ここにはデーリー東北さんもいらっしゃいますし、東奥日報さんもいらっしゃいますが、各社いろんな対策を講じてどうしたらいいのか、値札を作ってみたりとかいろいろされています。ただ折込みチラシを主要としているわたし共にとってはとても深刻な話なんです。

どうやって生き残っていくかということで、大きく二手に分かれています。脱印刷。ようは印刷は儲からないから他のことをやりま

しょう。これに突き進んでいるのはあろうことか業界の2トップといわれている大日本印刷と凸版印刷です。凸版印刷に関してはCMなどで見ておられるかと思いますが、社名から“印刷”を取ってしまいました。あれはうちは印刷会社ではありませんと宣言しているようなものです。大日本印刷もしばらく前からもう印刷のほうには見切りを付けてITや今後利益を印刷には依存しないという流れになっています。

ただ、これもちょっと愚痴になりますが、先ほどの2000年あたり、印刷がひじょうに盛り上がっていた時期に2トップがドンパチドンパチけんかしまして、価格破壊を仕掛けたのもあの2社なんです。だから今のこの時期になって脱印刷というのはいかにも無責任じゃないか、もうちょっと責任をとってからそういう話をして欲しいとも思ったりします。もう一つは残存者利益とよく言われますが、先ほどの2社のように印刷から離れていく、あるいは経営が悪化して廃業、倒産などいろいろ淘汰されていくであろう。ただ仕事の減る勢いはだいたい見えてきていますので、生き残ってさえいればある程度仕事は確保できるから、そちらで頑張っていこうよという会社。この両方があります。

弊社の場合は、今、少なくとも脱印刷といっても何を研究するにも投資するにもお金がかかります。ああいう大手とはちょっと勝手が違うものですから。だいたいこれ両方を進めていこうという経営方針になっています。印刷でも生き残る。印刷以外でも最近では看板や車のラッピングとか。よく車全体にアニメキャラが印刷されているような車を見たことがありますよね。あんなこともやったり、いろいろと業務をやっています。

今後は峯先輩のところともすごく協力しながら、たぶん印刷会社は南クラブにいらっしゃいますが、相当厳しい戦いになってきますけれども、先ほども申し上げた通り利害関係が一致している、獲物の違う会社さんと連携して何とか八戸、青森、東北に同業者はいっぱいいますが、協力し合ってこの印刷と

いう文化を守っていきたいと思っています。
会社の説明は以上です。

今度はわたし自身のことを聞いていただきたいと思います。わたしは1969年7月18日に北海道小樽市で生まれました。1969年7月18日はわたしの誕生日ですが、数日前に大きなできごとがありました。どなたか記憶にある方はいらっしゃいますか？日本時間で7月16日だったと思いますが、ヒントは全世界、人類にとってのたいへんな出来事だったんです。

アポロ11号が月面に着陸しました！うちのおじいちゃんはかなり変わった人で、本当にその日に生まれたらわたしに“アポロ”という名前をつけようとしていたらしい。漢字も決まっていて「亜幌」。今でこそ変わった名前、読みづらい名前もかなりありますが、当時はそんな名前だったら間違いなくいじめられていた。お母さんが2日くらい頑張ってくれて、その日に生まれなくて済んで普通の名前になりました。ちなみにおじいちゃんの飼っていた猫の名前はチンコでした。ネーミングは異常ですが、大好きなおじいちゃんでした。

その後わたしは石原裕次郎さんも通った同じ幼稚園に通います。ここでオヤジが葬儀屋のくせに何を思っか、カトリック系のミッション系の幼稚園にわたしを入れまして、そこにいたドイツ人のギル・グラート先生というシスターはしつげとなると容赦ない。ビンタなんて当たり前でしたし、ギル・グラート先生は両手でビンタするんです。

小学校は入船小学校といって、隣のクラス

には極楽とんぼの加藤浩次君がいました。彼は本当に今の彼のままで、いつも怒っていました、子供のころから。サッカーのキャプテンをしていましたが、顔を真っ赤にしていつも怒っていました。中学校はとんでもない暴力中学校でした。尾崎豊さんの歌ではありませんが、学校の窓ガラスが一晩でぜんぶ割れていまして、全国ニュースにもなりました。高校は劇団ザ・ニューペーパーの故渡部又兵衛さんが卒業した高校です。大先輩です。大学は当時レジャーランドと呼ばれていた札幌大学に行きました。遊びまくって、卒業まで5年かかりました。その後、なぜか北海道で一番大きな印刷会社に入社することになりますが、13年働いて、35年前にこの八戸に移住したという経歴です。

札幌時代は都会で、生きた心地がしなかったです。当時はクラブ批評ということばもないですし、コンプライアンスということばも聞いたこともなかったので、やりたい放題。1日2、3時間寝ればよいような生活をしていたので、八戸に来て時間の流れるスピード、心地よさ、加えて人々の温かさにも触れて。最初は札幌から八戸だったので、エツと思っていたのですが、今は本当に来て良かった。ここに骨を埋めようと心に決めております。もう20年経ちましたので、わたしも八戸人と認めていただいて、今後とも可愛がっていただければと願っています。今後ともよろしくお願いします。

司会：本日、こちらの会場で定例理事役員会がありますので、対象の方はお残りください。

出 席 報 告					出席委員会			
第3293回例会（11月22日）			第3291回例会（11月1日）					
出席率		46.8%	出席率		59.7%	修正出席率	72.6%	
総会員数		64名	出席数		29名	メイクアップした人数		8名
出席義務会員	出席免除会員	欠席数	出席義務会員	出席免除会員	欠席数		17名	
62名	2名	33名	62名	2名				

—— 第3294回 職 場 訪 問 例 会 2023.11.29 ——

職場訪問例会は小雪混じりのなか八戸圏域
水道企業団に30名出席のもとに行われました。
紺野会長欠席のため橋本副会長の会長要件、
松本幹事の幹事報告、親睦会場委員会のニコ
ニコボックスは小田山副幹事が行いました。
赤澤職業奉仕副委員長から本日の職場訪問

についての挨拶がありました。

水道企業団の概要説明はパンフレットがわ
たり田村事務局長がお話しました。

白山浄水場見学は浄水課の小笠原さんから
現場を案内しながらの説明がなされました。

